

シリーズ 日韓交流の歴史

朝鮮王朝の親日外交官「李芸」

寄稿 永留 久恵

一 李芸という人物

最近韓国で、歴史上の「文化人物」として選定された「李芸」は、十五世紀前半（日本では室町時代）日本との交隣外交で多くの功績があったことを評価されたもので、その功名は日本（対馬）にとっても嬉しい事として、その業績の一端を市民の皆さんに紹介したい。

李芸は朝鮮王朝前期の対日外交官として、日本に四〇余回使行（国王の使いとして来日）したが、そのうち七回は対馬まで、正使として来たことがわかつている。

当時の対馬は佐賀（峰町）が国府で、宗貞茂、貞盛、成織三代の館が当地にあつた時代で、李芸は当然、佐賀に来たことは言うまでもない。なかでも貞茂の死に「弔慰使」として遣わされた時は、「円通寺に至り、弔いの祭り」を致している。

李芸の「文化功勞」には、韓日文化交流の中で、単に韓国文

化を日本に伝えただけでなく、日本の文化を韓国に導入したことも、大きく報道されている。

対馬が室町時代に良い文化を遺したのは、朝鮮との通交貿易における「文引の制」（倭寇を取締るため、朝鮮通交者に証明書を発給することで、朝鮮王朝より対馬島主に委託された特権）、及び「己亥約定」（日本では嘉吉条約という対馬と朝鮮の貿易協定）を締結して、平和貿易が保障されたからだ。この文引制や通交条約を定めるのに、実務者として貢献したのが「李芸」であつたことを、対馬としてもよく認識し、顕彰したいことがある。

蔚山という海港に生まれ育つて、親日外交を振る舞つた李芸だが、実は幼少の頃、母は「倭寇」（日本の海賊）に捕えられ、日本に連れ去られたのだという。その行き先は対馬であつたかも知れないが、よくわからない。

李芸は日本に来るたび、この母の消息を尋ねたのではあるまいか。初めて日本に遣わされたときは、そのことを口にして勇んだようで、それは外交官を志望したときからの念願だつたのであろう。

その李芸の外交官としての業績には、「賊」と誹られる人たちの乱れた心を、正常に直すために絶大の貢献をした面がある。そのことを思つたとき、私は李芸という人物の底知れぬ度量の大きい人柄に感動し、畏敬の念を懐くようにもなつた。（次回は「李芸と対馬」を掲載します）



李芸が貞茂を弔つた場所  
円通寺（現峰町佐賀）

募集

「対馬市総合整備計画策定地域委員会」委員

対馬市では、個性と魅力にあふれた「まちづくり」を進めるため、基本計画を策定する対馬市総合整備計画策定地域委員会（住民ワークショップ）の委員を募集しています。



募集人員  
応募要件  
応募方法

各支所10名（計60名）  
市内にお住まいで、まちづくりに熱意のある20歳以上の方。  
お住まいの各支所総務課総務班にお申込ください。  
電話での申し込みも受け付けています。

上対馬支所 86-3111	上県支所 84-2311
峰支所 83-0301	豊玉支所 58-1111
美津島支所 54-2271	巖原支所 52-1211

募集期限  
活動内容

平成17年7月1日（金）  
各支所単位で開催する「地域委員会」住民ワークショップで、対馬市総合整備計画について検討・提言をしていただきます。